

学習アウトカム	科目達成レベル (薬理学総論)
<b>Ⅲ. 医学および関連領域の知識と応用</b>	
千葉大学医学部学生は、卒業時に 医学・医療の基盤となっている以下の基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、応用できる。	
<p>1 人体の構造と機能</p> <p>16) 末梢神経の種類と走行をその機能と関連づけて述べる事ができる。</p> <p>17) 神経伝達物質の遊離に関連する受容体, 薬物を列挙しその作用機序を説明できる。</p> <p>18) 各種受容体の構造とその細胞内情報伝達系, 生体反応との関連を説明できる。</p> <p>31) 神経筋接合部の微細構造と興奮収縮連関について説明できる。</p> <p>33) 神経節伝達機構を説明できる。</p> <p>36) Na<sup>+</sup>チャネルの構造, 機能と神経伝導における役割について説明できる。</p> <p>39) ニューロペプチドの生合成と分泌機構を説明できる。</p> <p>40) ニューロペプチドの受容体を挙げ, その情報伝達系を説明できる。</p> <p>47) 脳内ドパミンの神経経路と生理作用を説明できる。</p>	D
<p>4 病因と病態</p> <p>54) てんかんの国際分類に則した治療薬を挙げ, その副作用と禁忌について説明できる。</p> <p>55) パーキンソン病に伴う脳内伝達物質の変化について説明できる。</p> <p>56) 薬剤性パーキンソン症候群について説明できる。</p>	
<p>5 診断</p> <p>6 治療, 予防</p> <p>総論</p> <p>1) 薬の発達の歴史を説明できる。</p> <p>2) 薬力学, 薬物動態学, 中毒学で学ぶ対象を説明できる。</p> <p>3) 用量反応曲線を描き有効量と致死量の関係を述べる事ができる。</p> <p>4) 副作用の種類について説明できる。</p> <p>5) 適応と禁忌について説明できる。</p> <p>6) 耐性とその機構について説明できる。</p> <p>8) 薬物の吸収, 分布, 代謝, 排泄を説明できる。</p> <p>9) 薬物投与方法を列挙し説明できる。</p>	E / D

学習アウトカム	科目達成レベル (薬理学総論)
<p>10) コンパートメントモデルを説明できる。</p> <p>11) 薬物の半減期, 分布容量, クリアランスを説明できる。</p> <p>12) チトクロームP450を説明できる。</p> <p>13) 解離定数を数式化できる。</p> <p>14) 完全活性薬, 部分活性薬, 拮抗薬を説明できる。</p> <p>15) pA2とSchildプロットを説明できる。</p> <p>末梢神経薬理</p> <p>19) カテコラミンの放出, 取り込み, 貯蔵に影響を与える薬物を列挙しその薬理作用を応用できる。</p> <p>20) 各種交感神経作動薬の薬理作用を受容体と関連させて応用できる。</p> <p>21) 交感神経作動薬の臨床応用, 副作用を薬理作用と関連づけて応用できる。</p> <p>22) <math>\alpha</math>遮断薬の種類, 薬理作用, 副作用と臨床応用を応用できる。</p> <p>23) <math>\beta</math>遮断薬の種類, 薬理作用, 副作用と臨床応用を応用できる。</p> <p>24) アドレナリン作動性神経遮断薬の種類, 作用機序, 副作用について応用できる。</p> <p>25) アセチルコリンの生合成, 分泌, 代謝を説明できる。</p> <p>26) 副交感神経作動薬の薬理作用を受容体, 細胞内情報伝達系と関連づけて応用できる。</p> <p>27) 副交感神経作動薬の臨床応用と副作用を説明できる。</p> <p>28) コリンエステラーゼ阻害薬の種類と作用機序を説明できる。</p> <p>29) コリンエステラーゼ阻害薬の薬理作用を臨床応用との関連について説明できる。</p> <p>30) コリンエステラーゼ阻害薬による中毒とその治療について説明できる。</p> <p>32) 神経筋接合部遮断薬の種類とその薬理作用の特徴について説明できる。</p> <p>34) ニコチンおよび節節遮断薬の薬理作用を説明できる。</p> <p>35) 神経筋接合部及び神経筋遮断薬の臨床応用を説明できる。</p> <p>37) 局所麻酔薬の種類とその臨床応用の実例を具体的に説明できる。</p> <p>38) 生理活性ペプチドを列挙しその生理作用を説明できる。</p> <p>中枢神経薬理</p> <p>41) 睡眠薬を分類し, 薬理作用と副作用について応用できる。</p> <p>42) 不眠の型と薬の選択について説明できる。</p> <p>43) 抗不安薬を挙げ, その作用機序と薬理作用について応用できる</p> <p>44) 心身症, 神経症に対する抗不安薬の適応について説明できる。</p> <p>45) アルコールの中枢, 末梢神経系への作用について説明できる。</p>	

学習アウトカム	科目達成レベル (薬理学総論)
<p>46) アルコールの代謝酵素, 嫌酒薬について説明できる。</p> <p>48) ドパミンD2受容体遮断薬の薬理作用について説明できる。</p> <p>49) 抗精神病薬を分類し, それらの薬理作用と副作用について応用できる。</p> <p>50) 脳内セロトニン神経, ノルアドレナリン神経とうつ病の関連について説明できる。</p> <p>51) 抗うつ薬を分類し, それらの作用機序と薬理作用の特徴について説明できる。</p> <p>52) 三環系抗うつ薬とその他の抗うつ薬の副作用の相違について説明できる。</p> <p>53) 各種抗てんかん薬の作用機序を説明できる。</p> <p>57) 各種パーキンソン病治療薬の作用機序, 適応, 副作用について説明できる。</p> <p>オータコイド</p> <p>66) ヒスタミンの生体内分布, 遊離機構, 薬理作用と病態での役割を説明できる。</p> <p>67) ヒスタミンH<sub>1</sub>およびH<sub>2</sub>受容体遮断薬を列挙し, その臨床応用と副作用について説明できる。</p> <p>68) セロトニンの体内分布, 生理作用を説明できる。</p> <p>69) セロトニン受容体の多様性とそれらに作用する薬物の臨床応用について説明できる。</p> <p>70) レニン-アンジオテンシン系の生合成とその生理的作用について説明できる。</p> <p>71) アンジオテンシン変換酵素阻害薬およびアンジオテンシン受容体拮抗薬の臨床応用と副作用について説明できる。</p> <p>72) シクロオキシゲナーゼ系を介するプロスタグランジンの生合成について説明できる。</p> <p>73) リポキシゲナーゼ系を介するロイコトリエンの生合成について説明できる。</p> <p>74) エイコサノイドの各種受容体を介する生理作用について説明できる。</p> <p>75) プロスタグランジン各種受容体作用薬および拮抗薬の臨床応用について説明できる。</p>	